

タイトル	ご退職記念号に寄せて：船岡誠教授・川上武志教授 をお送りする
著者	上野，誠治；UENO, Seiji
引用	北海学園大学人文論集(62)：1-2
発行日	2017-03-31

## ご退職記念号に寄せて

— 船岡誠教授・川上武志教授をお送りする —

人文学部長 上野 誠 治

本学人文学部日本文化学科教授・船岡誠先生、英米文化学科教授・川上武志先生は、2017年3月31日をもって長く教鞭を取られてきた人文学部を定年退職されることになりました。ここに両先生の、長年にわたる学部および大学院に対するご貢献に感謝の意を表する次第です。

船岡誠先生は、明治大学大学院文学研究科博士課程を単位取得退学後、放送大学、明治大学、聖心女子大学などの非常勤講師を経て、1993年4月に開設された本学人文学部日本文化学科教授として着任されました。以来今日に至るまで、人文学部の発展のためにご尽力頂きました。まさに人文学部開設期を知る最古参の先生のおひとりです。

ご専門は、日本禅宗史、特にその成立史や思想史で、その成果は多くの論文や著書に結実しています。とりわけ、『日本禅宗史の成立』（吉川弘文館、1987年）は、鎌倉時代初期に伝来したとされる禅宗を、古代仏教からの自立・分化という内的な変遷の中に位置づけ、従来の視点とは違った角度から新たな問いかけをする研究として、高く評価されています。また、近年刊行の『道元』（ミネルヴァ書房、2014年）は、先生の長年の蘊蓄を傾注された優れた道元論になっています。教育面では、学部の日本文化概論・同特論、日本文化専門演習、大学院では日本思想特殊講義・同演習、日本語・思想文化論文指導特殊演習などを担当され、禅宗史への独自の視点と深い洞察で、人間味溢れる授業を展開し、学部生・大学院生を大いに啓発して頂きました。行政面では、数多くの重要かつ多忙な委員を歴任され、さらに2001年4月から3年間にわたり人文学部長の要職に就かれるなど、人文学部の発展のために大いに貢献されてきました。何事にも温和なお人

柄とユーモアで対処され、随分と癒やされたことが幾度となくありました。

川上武志先生は、北海道教育大学中学校教員養成課程をご卒業後、北海道大学大学院文学研究科修士課程で英文学を専攻され、1975年に苫小牧駒澤短期大学講師に就任されました。その後、北海道教育大学旭川校助手、講師、助教授、教授、さらに同大学大学院旭川校教授を経て、2002年に本学人文学部英米文化学科教授として着任されました。

先生は、アイルランドの詩人・劇作家である W. B. イェイツの研究に一貫して専心され、その研究成果は多数の論文にまとめられています。イェイツの作品で象徴的に表現されている思想の解明や、作品に盛り込まれたイェイツの演劇理念の詳細な分析を試み、さらにはイェイツが主導したアイルランド文芸復興とアイルランド・ナショナリズムに潜む問題性などを論じておられます。また、近年は翻訳にも取り組まれ、イェイツの回顧録『幼年と少年時代の幻想』（英宝社、2015年）を出版され、「詩人の記憶に残る最初の光景にはじまり、二十歳代の半ば頃にいたる思い出話の数々が日本語で読めるようになった」と、高い評価を得ています。教育面では、学部の英米文学史・同特論、英米文化専門演習、大学院では英米文学特殊講義・同演習、欧米言語・思想文化論文指導特殊演習などを担当され、イェイツをはじめとする英国詩人の作品の読解および鑑賞を通して英国詩歌の神髄を捕まえることを目標に、学生たちを指導してこられました。先生は、教育大学のご出身であり、長く教員養成にも関わってこられた経験を活かし、本学においても、特に英語教員を目指す学生に対して、たいへん熱心に指導して頂きました。

敬愛するお二人の先生が定年退職されるということで、非常に寂しい思いもいたしますが、ますますお元気で活躍なさいますようお願いするとともに、今後とも人文学部の行く末を見守って頂き、厳しい叱責と温かい激励をお願いいたします。